

北海道木育フェスタ 2022 に参加し、植樹をしました

令和4年5月28日（土）、苫小牧市静川の苫東・和みの森（2007年全国植樹祭会場）で開催された「北海道木育フェスタ2022 第72回北海道植樹祭～育てよう 優しい心と あふれる緑～」に、当社から社長、木戸口和裕技術顧問の2名が参加しました。

主催者は、北海道、林野庁森林管理局、苫小牧市、公益財団法人北海道森と緑の会の4者です。私どもは、協力者である北海道森林土木設計協会（計30名参加）の一員として参加したものです。

苫小牧市の同地での植樹祭開催は、令和元年10月19日以来の開催となります。昨年10月9日に同会場では全国育樹祭お手入れ行事開催されており、この全国育樹祭開催後では初めてとなる大規模な植樹祭行事となりました。

当日は、曇り空でしたが、懸念されていた雨は降りませんでした。



主催者代表の鈴木直道北海道知事のあいさつ



アカエゾマツの植樹状況

主催者代表の鈴木直道北海道知事の挨拶がありました。マスク着用で挨拶する知事の姿からわかるように、会場内では、マスクの常時着用で、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策下で、開催決定をされた主催者の苦勞が窺われる「ウィズコロナ」時代の植樹祭となりました。

植栽樹種はアカエゾマツ、ミズナラ、ハルニレ、ナナカマドの4樹種で、私どもの所属する北海道森林土木設計協会の参加者はアカエゾマツを植栽しました。

植樹祭会場のいたるところにエゾシカの糞が見られ、食害されやすい広葉樹を担当した参加者グループでは、エゾシカ、ノウサギ、ノネズミ対策用の筒の設置をしているのが、見受けられました。

近年、市街地の公園でも、エゾシカの食害が報告され、山間地だけでなく市街地でも「ウィズエゾシカ」の時代に入りました。人家裏の山腹斜面における治山の植栽工の計画では、エゾシカ対策（例えば「カプスガード®（液体の辛味定着材）」の塗布など）を提案しなければならない時代に入ったという思いを強くしました。